KAPPA BOOKS

北朝鮮崩壊せず

金正日を支える「変身」と「みなし」の理論

国際経済学者 方燦栄（パン チャニョン）
毎日新聞記者 重村智計（しげむら としみつ）

金正日に経済改革策をさずけた国際経済学者と朝鮮問題の第一人者が初めて明かす、「南北統一」への衝撃のシナリオ！

- 金正日体制の延命を策す米・中・韓の謀略とは
- 食糧難で崩壊した国はない
- 潜水艦侵入事件の真相

〈カッパ・ブックス〉最新刊・書下ろし 定価820円（本体796円）・光文社



方 燦栄〈パン チャニョン〉

1936年生まれ。延世大学卒業。経済学博士。コロラド州立大学、サンフランシスコ大学などで経済学、政治学、歴史学を学び、以後25年間、サンフランシスコ大学、UCLA、漢陽大学などで経済学を講義。'91年、ベーカー米国務長官を手玉にとったことで知られるカザフスタン共和国のナザルバエフ大統領より経済特別顧問に招請される。以後'94年まで経済改革策の立案・施行に携わり、その功により大統領最高功労勲章を受章。著書に、金正日が密使を派遣するきっかけとなった『岐路に立つ朝鮮民主主義人民共和国』がある。

カバーデザイン／斎木磯司

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。
こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。
私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。
この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。
そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。
　こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。
　私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。
　この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。
　そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、

事情もあるだろうが、それよりも、アメリカは潜水艦の行動を武装・戦闘行動ではなく、通常の情報収集、スパイ活動と判断したからである。

こうした潜水艦座礁事件後の米・韓・北朝鮮三国の対応の違いからもわかるように、北朝鮮をめぐる問題は、朝鮮半島内部の限られた視点から見ると、南北の対立やお互いの駆け引きに振り回されがちだ。そうではなく、国際政治の流れと思惑・駆け引きといったより広い視野を加味すると、新たな謎解きが可能になる。いまや朝鮮問題は、国際政治との関連なしには読みとれなくなっているのだ。

私は、北朝鮮のシンパではない。支持者でもない。日本人は、南北朝鮮いずれの旗振りもすべきではない。先生のように教えをたれるべきでもない、という立場を貫いている。南北朝鮮の人びとがみずからの運命を決める権利を侵してはならない。おせっかいは、断じて禁物である。

この本で、私が展開しているのは、国際政治の側面からは、韓国も中国も、そしてアメリカもまた北朝鮮の早期崩壊を望んでいないというリアリティーである。むしろ、アメリカと中国は北朝鮮の延命と支援に積極的なのである。韓国もまた、好むと好まざるとにかかわらず同じ立場に立たされている。言葉をかえれば、米・韓・中の三国は、金正日体制の延命を画策する国際的な謀略の当事者ともいえるのだ。これが、私がいうところの国際政治におけるリアリティーである。

そもそも、国家の崩壊には二つの要素がある、



重村 智計〈しげむら としみつ〉
1945年、中国・遼寧省丹東に生まれる。早稲田大学法学部卒業。シェル石油勤務の後、'71年毎日新聞社に入社。'79〜'85年ソウル特派員として、当時、北朝鮮一辺倒だった日本の朝鮮半島報道の流れを変える。'89〜'94年ワシントン特派員時には、米朝核交渉問題で数々の国際的スクープをものにする。この間、高麗大学大学院、スタンフォード大学に留学。現在、論説委員。国際的な視点からの朝鮮半島理解を提唱し、安易な「北朝鮮崩壊論」を厳しく批判する。著書は「韓国人はほんとうに日本人が嫌いか」など。

カバー印刷　萩原印刷

9784334005740

1910231008203

ISBN4-334-00574-8

C0231 P820E

定価820円（本体796円）

北朝鮮崩壊せず

金正日を支える「変身」と「みなし」の理論